メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第 88 号
〔2016 年 10 月号〕

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第 88 号をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞　　〔ページ〕

イベントのご案内

メソトマンスリー

国内から

JAM スタディツアー実施報告

編集後記

次号の予定

この度、プミポン・タイ国王陛下崩御の報に接し、誠に深い悲しみに耐えません。

この比類なき悲しみの中にあるタイ国民の皆様を想い、衷心から哀悼の意を表します。

人々の声に耳を傾け、70 余年もの長きの間、人々と共に歩んでいらっしゃった国王の在りし日のお姿を遥かに偲び、ここに謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

NPO 法人メータオ・クリニック支援の会は、現地での活動に安全を期し、これからも人々のニーズに寄り添った活動を皆様と共に継続してまいります事をここに表します。

2016 年 10 月 13 日

NPO 法人メータオ・クリニック支援の会一同　代表 小林 潤

イベントのご案内

２つイベントのお知らせがございます。
ご都合がよろしければ、ぜひ、お越しください。

①現地派遣員ＪＡＭ活動報告会＆交流会

**※この報告会＆交流会は、賛助会員以外の方もご参加いただけます。
お知り合いも誘ってぜひご参加ください。**

現地派遣員神谷看護師がメソトより帰国し、1 年間の活動について報告します。
例年の報告会とは少し形を変えて、今年はお食事をしながらの交流会です。
より深く、ミャンマーやメータオ・クリニックについて語り合いませんか？

日時：2016 年 11 月 27 日(日)　17:30～20:30

場所：DINING ＆ BAR GRANT（ダイニング＆バーグラント）

最寄駅：浜松町駅、大門駅

参加費：4,000 円（食事代として。お料理と飲み放題込みの金額です。）
※万一、キャンセルされる場合は前々日（11 月 25 日）までにご連絡ください。
それ以降のキャンセルの場合、お料理等の準備の都合上、参加費をご負担いただかなけれ

ばなりませんのでご了承ください。

内容：現地派遣員（神谷友子看護師）によるＪＡＭの活動報告、交流会

参加方法：メールにて事前申し込み制

申し込み締め切り日：11 月 11 日（金）

申し込み方法：
メールタイトルに「活動報告会、交流会参加申込み」とご記入の上、
以下情報と合わせて当会アドレス“support@japanmaetao.org”までお送りください。

(1)氏名
(2)住所
(3)所属
(4)電話番号
(5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス

②ミャンマー祭り 2016

今年は、はじめてミャンマー祭りに出店を予定しています！
今年は、グローバルフェスタには、当会は参加しません。

ミャンマーの食や伝統品のお店もたくさん出るので、日本にいながらミャンマーを感じられるお祭りです。
現地派遣員の神谷看護師もメソトから参加予定です！（夜は、活動報告会＆交流会）

※当日、JAM のブースを盛り上げてくださるボランティアを募集しています。

お時間は調整します。1 時間でもかまいません。
具体的にお願いしたい内容は、テント張り、テントたたみ、民芸品販売の商品の陳列、販売（店番のお手伝い）、通りがかった方へのチラシ配りです。

日時：2016 年 11 月 26(土)27 日(日)　10:00 から 18:00(27 日は 16:00 まで)

場所：浄土宗大本山　増上寺（東京タワーが間近に見えます）

最寄駅：JR 線・東京モノレール 浜松町駅から徒歩 10 分
都営地下鉄三田線 御成門駅・芝公園から徒歩 3 分

申し込み方法
メールタイトルに「ミャンマー祭りボランティア申込み」とご記入の上、

以下情報と合わせて当会アドレス“support@japanmaetao.org”までお送りください。

(1)氏名
(2)住所
(3)所属
(4)電話番号
(5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス
(6)＜ミャンマー祭りボランティアの場合のみ＞26日、27日の中で参加可能な日にちと時間帯

メソトマンスリー

【メソト＝神谷　友子】

ターソンヤン病院での看護実習

メータオ・クリニックでの看護トレーニング生２３人が、９月５日から１０月７日までの５週間、ターソンヤン病院で看護実習に行ってきました。メータオ・クリニックからは車で約２時間の場所にある、タイの公立病院です。

看護トレーニングの生徒のみんなは、ミャンマーの山奥の村でコミュニティヘルスワーカー(CHW)になるための基本的な医療知識は学んでいますが、病院での医療を知りません。実際に見たことがないものを講義やクリニック内の練習だけで理解してもらうのはとても難しいことです。そこで、実際にタイの公立病院に行って看護師の仕事とはどのようなものかを見て学んでもらうため、実習に行ってきました。

２３人が５グループに分かれて、成人病棟、小児病棟、産科病棟、外来・救急、医療器材の消毒の５か所を１週間ずつ回りました。
病院の看護師やスタッフはみなタイ人ですが、国境地域にある病院のため患者さんの８割はカレン族の人です。そのためカレン語を話すことができるスタッフも多くいます。消毒の処置用のワゴンがクリニックにもあったらいいね、注射用のワゴンに仕切りのあるケースを置いて針やシリンジを使いやすく並べたいね、などクリニックに帰ってから改善したいことをたくさん学ぶことができました。
また、時間通りに仕事にくること、髪や服装など身なりを整えること、仕事中にビターナッツ（噛み煙草）をかんだり、飲酒や喫煙をしないこと、携帯電話で遊ばないこと、病院内を清潔に保つことなど、仕事に対する態度についても学びました。

以前は、講義の途中でも席を立ってどこかに行ってしまったり、近くの席の人をおしゃべりしたりといった態度でしたが、ターソンヤンでの講義やグループワークではみんな真剣に話を聞いたり積極的に発言したりと、みんなの意識が変わったことを実感しました。

この取り組みはクリニックにとって初めてのことで、タイ・ミャンマー国境の地域の団体組織の活動で表彰されました。百聞は一見に如かず、メータオ・クリニックのスタッフがタイの病院の医療に触れることができたのはとても素晴らしいことだと思います。

クリニックには約８０名の CHW スタッフがいますが、今回実習に行くことができたのは２３名。クリニックではすべての CHW スタッフに看護トレーニングを実施して、クリニックの医療の質を改善しようとしています。これからもクリニックの看護トレーニングの支援を続けていけたらと思っています。また、ターソンヤンでの実習を終えたスタッフがこれからどのようにクリニックを変えていってくれるのかも楽しみです。

初日はみんなで院内見学

医療材料の滅菌の準備

注射薬の準備。
ワゴンの使い方も参考になりました。

タイの公立病院で学んだことをどのようにメータオ・クリニックに生かしていきたいか、クリニックでの勤務病棟ごとに分かれて話し合いました。

病棟ごとに話し合ったことを発表しました。みんな真剣です。

２３人全員、休むことなく５週間の実習を終えることができました。
最終日の修了式にはクリニックからシンシア院長や各病棟から１名ずつシニアスタッフも来てくれました。

きょうのゆめ

今回は、メータオ・クリニックのスタッフで看護トレーニングに参加している二人にお話を伺いました。

まず一人目は、産科病棟勤務１年目のCHW、イーサンミンさん、２５歳。

「カレン州の小さな村の出身で５人の兄弟がいます。父親は６３歳の時に心臓病で亡くなりました。
７歳から学校に通い始めて、１～４年生までは自分の村で、５～８年生は他の村で学びました。今は３歳くらいから幼稚部に通うこどもが多いけど、昔はありませんでした。それからターソンヤン地域にある、Noh Bo(ノボ)　academy school というキリスト教系の学校で７年間勉強しました。こどもの頃は将来通訳になりたいと思っていたけど、私には身分証明書がないので難しいのです。私の村には病院がなくて、一番近い病院に行くにも車で３時間かかります。貧しい人を助けるために医療を

勉強したいと思って、2014年にCHWのトレーニングを受けました。Dae Bu Noh(デブノ)　というカレン州にある村で、メソトからは川を越え山を越えてとても遠い場所にあります。トレーニング終了後、2015年からメータオ・クリニックで働き始めました。

将来はリーダーになりたいです。患者さんと口論するのではなく、患者さんの気持ちに寄り添って優しく話をしてケアしたい。今は看護のトレーニングを受けているので、看護のリーダーになることに興味があります。もしもチャンスがあればメディクになって故郷の村人を助けたいとも思います。少なくとも２年間はクリニックで経験を積んで、村に帰りたいです。村の人は、仕事や家族や経済的な問題でメータオ・クリニックに来ることが困難です。車もありません。医療へのアクセスが難しいのです。村に帰れなければ、クリニックでリーダーとして働き続けたいです。

趣味は新しいところへ行くこと、特に自然のある場所。クリニックの仕事も、産科病棟だけではなく、すべての病棟を回ってたくさんのことを学びたいです。」

イーサンミンさんは看護トレーニングでのグループワークではいつも中心となって話を進め、看護トレーニングに参加する女性メンバーのリーダー的存在です。物おじせずに、目上の人に対してもはっきりと自分の意見を伝えることができ、周囲への気遣いもできるので、将来はいいリーダーになれると思います。

もう一人は、内科病棟勤務３年目のハンターウーさん２２歳。

「私もカレン州の出身で、３人の兄弟と両親はみなミャンマーに暮らしています。８年生まで地元の村の学校に通い、進級のためメソトに移り住んできました。２年間メータオ・クリニック近くの移民学校、ＣＤＣ校で学び、卒業後はユースコネクトという職業訓練の講義を３か月受講しました。実習の対象年齢が１８歳以上でしたが私はまだ１７歳だったので実習に行くことができませんでした。学生の時は医療に興味がなく先生になりたいと思っていましたが、メソトに来て一緒に住んでいたクリニックのスタッフの仕事を見て、私もこの仕事に就きたいと思うようになりました。

私の故郷の村では、出産で多くの女性が命を落としていました。正しい出産の方法を知らずに、男性３～４人が無理やりお腹を押して赤ちゃんを出そうとしていたのです。また、陰部を竹の棒で切るなど、感染のリスクがあることをみんな知りません。2012年にイーサンミンさんと同じ村でコミュニティヘルスワーカーの訓練を受けて、2013年からクリニックで働き始めました。

看護トレーニング終了後は、２年間看護スタッフとしての勤務が義務付けられています。できたらその後メディクとしてクリニックで働き続けたいです。私は内科疾患に興味があるので、他の病棟を回るよりも、ずっと内科病棟で働いて、内科のことをもっと知りたいと思っています。母親はバンコクに行ってもっと稼ぐようにと言いますが、私は貧しい人を助ける仕事がしたいです。将来もし結婚したら、こどものためにメソトで暮らしたいと思っています。」

出かけることと食べることが好きで、いつかヤンゴンにあるシュエダゴンやバガンに行ってみたいと話すハンターウーさんは、とても人懐っこくて、かわいい笑顔が印象的です。とても勉強熱心で分からないことは質問してきます。カレンの人は控えめなところがあって、授業で分からないところがあっても、先生に分かりませんと言ったり質問することが難しいのだそうです。

二人はターソンヤンでの看護実習を終えて、メータオ・クリニックは支援してくださる方の寄付金で成り立っていて、お金や物資は足りていないし、医師もほとんどいないなど、タイの病院とは状況が異なることが多くて同じようにはできないけれど、もっとケアや健康教育のレベルを上げたいと話してくれました。患者さんに指導するためには、まずはスタッフが見本となるような行動を取らなければいけない。メータオ・クリニックではなく、「メータオ・ホスピタル」と呼ばれるようにしたいと。看護トレーニングは始まったばかりですぐに何かをかえるのは難しいかもしれないけど、一歩ずつ頑張りたいと力強く話してくれました。

看護トレーニング一期生として、この二人がクリニックの看護ケアの向上を引っ張ってくれることでしょう。二人の夢、応援しています！

国内から

【東京＝鈴木　みどり】

皆さん こんにちは。JAM会員の鈴木みどりと申します。昨年9月迄JAMの現地派遣員としてメーソットに滞在していました。

帰国した今もJAMの集まりや会報を見る度にみなさんに支えられて無事に活動できたことを思い出しています。帰国後しばらく生活が慌しくてちゃんとご挨拶できなかったので、今回私事で恐縮ですが、近況報告をさせて下さい。

昨年末に帰国後、都内で派遣の看護師として働き始めました。
帰国したばかりの頃の本音は、また海外で国際協力に関わることがしたい、でも看護技術もこれ以上忘れたくない、いずれは看護を指導できるようになりたいけど一体何年かかるやら…と、これから先の方向を一本に絞れずにいました。
そこで生活の基盤を作るべく、この夏から病院に再就職しました。いずれまた海外でボランティアするにも看護師の仕事を基礎から復習することは無駄ではないと思ったので。

また、昨年末から就職するまでの一時滞在先として、谷根千にあるシェアハウスに住み始めました。その生活が面白いので少し紹介させていただきます。

建物は築百年を過ぎた古民家で、個室はなく一部屋(寝室)に6-7人一緒に、シェアハウス全体だと男女約20人が住んでいます。共有スペースは広くレトロな感じで冬は薪ストーブで暖まります。たまに小規模の展示会が開催されることもあります。
今までは長期滞在するためには最低でも個室は必要だと思ってきましたが、ここで限られた専有スペース(ベッド＋収納のみ)を利用するうちに、そうでもないと分かりました。私はシェアハウスも同じ部屋に複数で住むのも人生初ですが、幸い住民同士のトラブルは未だ見る

ことなく生活しています。

それにはやはり理由があります。

ここには住民同士が気持ちよく生活するために、明確なルールが存在します(例えば、寝室で音出し禁止、不潔な生活禁止、共有スペースで裸禁止、掃除当番忘れは罰金など)。管理人が一緒に暮らし、オーナーとの距離も近いのでみんながルールを守ります。

住民のほとんどは社会人でお互い干渉しませんが時には食事や本、DVDを共有したり、それぞれの活動や関心を紹介したりしています。地域のイベントに一緒に参加する機会もあります。私はこれまで町内会に積極的に参加したことはありませんでしたが、今年初めて町内会員としてシェアハウスの住民と一緒にお祭りで御神輿を担ぎ、打ち上げに参加しました。

シェアハウスの特に良い点は、生活必需品を個人で揃える必要がなく、生活費を抑えられることです。また、一人の時間も住民同士が繋がる時間も無理なく作れますし、ベッド周りは自分の工夫次第でレイアウトを変えたり収納を多少増やせるので子供の基地を作るような面白さがあります。

もちろん弱点もあります。例えば、住民の誰か一人がインフルエンザなど感染症にかかれば感染がすぐに拡がるリスクがありますし、外部の人が出入りし易いため危機管理が甘くなることも考えられます。他にもイビキや寝返りが響く、収納スペースが小さいなど人によっては気になる点がありますが、私はあまり気にならないです。

こうして一時滞在のはずが、既に10か月経ちました。この生活をもう暫く楽しみたいと思います。

JAMスタディーツアー実施報告

【東京＝熊埜御堂　美亜】

１．　日程　2016年9月5日～9月10日

２．　成果　スタディーツアー全日程を終了、メータオ・クリニック・移民学校・ゴミ山などを見学し、タイとミャンマーの国境に住む人々の生活について実際に見て学ぶことができました。

３．　行動経過

9/5（月曜日）

18時頃にメソト空港に到着。ＪＡＭの現地派遣員と合流した後、タイとミャンマーの国境である国境の橋へバンで移動し国境周辺を見学しました。土手に住んでいる人たち、タイの道に入らないよう、土手の下から足の長い小屋を作りタイ側の道を歩く人に手すり越しに商売している様子、子供たちがサッカーをしている様子など見ることができました。国境の川にはボート出してミャンマー・タイ間を行き来する人がいましたが、川周辺にはタイの軍人が銃をもって見張って不法侵入を取り締まっている様子が見られました。

30分ほど国境の橋を見学し、その後ビルマ料理を食べることができるレストランで食事を

して21時にD.Kホテルにチェックインしました。

9/6（火曜日）

朝7時に朝ごはんを近くのおかゆ屋さんで食べました。

8時10分出発して、新メータオ・クリニックに向かい、スタッフ案内の元、クリニック内を見学しました。受付から始まり、眼科、小児科、産婦人科、輸血室、検査室、薬局、滅菌室、内科・外科病棟、産婦人科病棟、小児科病棟内を見学しました。

現地スタッフによるとメータオ・クリニックには1日に300～400人の外来患者が訪れるそうです。そのうち、４５％がビルマから、残りの大半はメソトに住む患者だそうです。

メータオ・クリニックは、医療施設としての活動、医療スタッフの教育機関としての活動、さらには、難民として生まれた子供が国籍を得るための活動を行っているそうです。シンシア先生との座談会では、こうしたクリニックの活動や理念についてなどを詳しくお話を聞くことができました。

小林ＪＡＭ代表のワークショップでは、援助論におけるリバタリアンとコミュニタリアンについて、援助を行うときにぶつかり合う、プロプアとガバナンスの二つの考えかたなど援助について、対象者や方法、援助をするときに必要な能力などの面から学ぶことができました。

17：00メータオ・クリニックを出発し18：30　難民画家マウンマウンティンさん宅にて夕食をいただき、カレンダーなどを購入しました。

9/7（水曜日）

8：10　ホテル出発。

8：35～9：30　神谷現地派遣員の案内のもと、旧メータオ・クリニックを見学しました。旧メータオ・クリニックは、昨年まで使われていたクリニックで現在は、針灸、マッサージなどの診療科と医療スタッフのトレーニングルームとして使用されています。診療科については、中まで見ることはできませんでしたが、トレーニングについては母性看護教育の担当の方から話を聞くことができました。現地スタッフによると、トレーニングを終えた人は資格を取ることはできませんがメディックとしてメータオ・クリニックで医療スタッフとして働いているとのことでした。

11：00～13：00　移民学校HOPE校を訪問。HOPE校では、生徒から歌のプレゼントがあり、その後自分たちからも車内で練習した、「幸せなら手を叩こう」を披露しました。最後に、生

徒とみんなで歌いました。その後、メータオ・クリニックのスタッフが手洗い教育を行っているのを見学しました。蛍光塗料を用いた手洗いチェッカーや絵や図を使用してわかりやすく工夫された健康教育を行っていました。

12：00昼食。

昼食後、日本から持ってきた文房具などの寄付を行い、子供たちと遊びました。遊び方は参加者さんでそれぞれでしたが、折り紙で作った飛行機やシャボン玉、スーパーボールなど持参した遊び道具に子供たちは喜んでくれました。その後、クリニックスタッフによる歯ブラシの使い方指導を見学しました。また、子どもたちの中には、タイの子、ノンタイの子どもが含まれていて、両親は周辺で農業従事者として働いている場合が多いと校長先生から話を伺い、そうした子供たちのための寮を見せてもらいしました。

15：00～16：30

SKY　BLUE校を訪問。案内してくださった先生によるとSKY　BLUE校に通う生徒はほとんどゴミ山に住む子供たちで、両親も一緒に住んでいるそうです。授業終了間際の様子を見せてもらいました。学校終了前には全校生徒が校庭に集合し、タイの国家とミャンマーの国家を歌っていたのが印象的でした。

ゴミ山の見学では、ゴミ山周辺の家族の家をのぞかせていただき、お話も聞かせていただきました。子供3人と両親で暮らしている家は、竹で高床式に作られていました。電気はお金を払えば使用可能ですが、彼らの収入にとっては高額で電気をひいている家は多くないと同行していたメータオ・クリニックのスタッフから聞きました。訪問した家族は、入浴は周辺住民が使用できる場所がある、トイレはないなど生活のことを教えてくれました。

17：00ホテルに到着し18：00に夕食を食べました。

9/8（木曜日）

8：30　トゥクトゥクにてメソト病院に向かいました。

9：00～12：00　初めに看護部の方々が歓迎してくださり、施設の概要を紹介していただきました。その後、病院スタッフの案内の元、院内の見学をしました。今回は、参加者の希望より、主に検査室の見学、産科病棟の見学、小児科病棟の見学、及びタイマッサージ診療科の見学をしました。メソト病院はメソト郡のタイ公立病院ということもあり、検査室に関しては日本と同様な装置が備わっていました。産科病棟に関しては、病棟内までは見学できませんでしたが、ファミリープランニングを行っているところも見せてもらいました。メソト

病院の看護師によると、メソト病院は移民の患者も多く受け入れているそうで、産科では今まで産前健診に来ていなかった移民の患者が多いという話でした。メソト病院では移民の人たちに対しても積極的にファミリープランニングや妊婦検診を行っていきたいと考えているそうです。タイマッサージの診療科では、血圧や体温の測定後、本格的なタイマッサージを受けることができる、タイでは主流な診療科です。参加者 2 人がマッサージを受けさせてもらいました。

12：00 ミャンマーの国境を越え、ミャンマーの市場や寺院を見学しました。同時間に幾人かのツアー参加者がミャンマー料理教室で料理を習い、その日の夕食を作ってくれました。

19：00　夕食。

9/9（金曜日）

8 :50　難民キャンプで図書館事業を行っている日本のＮＧＯシャンティ国際ボランティア会（SVA）さんと難民キャンプに向かいました。

難民キャンプでは初めに、高校を訪問しました。SVA さんによると難民キャンプには、小学校から大学まであり、高校を卒業した生徒のほとんどがキャンプ内の大学に進学しているそうです。高校を見学した後、キャンプ内の病院を見学しました。病棟内の見学に加え、薬局内や予防接種、ファミリープランニング、自殺予防講演などを行っているところをみることができました。

12 :00　SVA さんの事業である図書館にて昼食。午後は、図書館の活動の見学、家庭訪問を行いました。図書館の本は、日本など外国の絵本のもので、ビルマ語、タイ語、カレン語の訳がされていました。見学した図書館の活動では、図書館のスタッフが子どもたちに絵本の読み聞かせをしたり、みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたりしていて 30 名ほどの子供たちが参加していました。私たちも、折り紙を作って子供たちと遊ぶことができました。

家庭訪問では、母・娘二人暮らしの家にお邪魔し、家の中を見せてもらいました。訪問先のお母さんから、近所に住んでいる子供や家族・近所で協力して生活しているため生活に不自由ないなど、難民キャンプの生活について話を聞くことができました。キャンプ内では、米などの基本的な配給を受けられ、キャンプ内は経済活動が禁止されていますが、実際はキャンプ内にこの親子もよく利用するという市場が充実していました。

17：00、ホテルに一時帰宅し、18：00 から SVA さんを含めてウィークエンドマーケットにて夕食。

9/10（土曜日）

10：00 から 1 時間ほど全体の振り返り、アンケートの収集をおこないました。11：00 にタクシーで空港に向かい、12：40 の飛行機にてバンコクに移動、ドンムンアン空港で解散しました。

以上が今年のスタディツアーの報告でした。
今年も多くの出会い、思いや学びがぎっしりと詰まったスタディツアーになりました。
メータオ・クリニックと国境の現状は年々変化していますが、私たちＪＡＭは、続けられる限り、国境と日本をつなぐスタディツアーを実施していきたいと考えています。

編集後記

現在、毎年恒例になりました当会のカレンダー（平成２９年版）を準備中です。
今年も、現地の子どもたちの笑顔や風景を収めた作品になっています。
このカレンダーの収益は、当会の活動に役立たせていただいておりますので、ぜひご理解とご協力をお願いします。
なお、賛助会員の皆様には、年末に一年間の感謝の気持ちを込めて、登録されているご住所に郵送にてお送りさせていただく予定ですのでお楽しみにしていてください。ご住所が変わった方がいらっしゃいましたら、
日本事務局宛てＥ メール：support@japanmaetao.org　までお知らせくださると助かります。

なお、カレンダーは、一足先にミャンマー祭りで先行販売します。複数部ほしいわ～。という方は、ぜひ、ミャンマー祭りにお越しください。お待ちしております！

次号の予定

次号は、11 月中～下旬ごろ配信の予定です。
ホームページは、随時更新していきますので　ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会の Facebook もフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1 日 10 円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。
【一般会員】3,650 円/年　　【学生会員】1,825 円/年　　【法人会員】36,500 円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。

◇◆◇

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会　　Japan Association for Mae Tao Clinic（JAM）

日本事務局宛て **E** メール：　support@japanmaetao.org

ホームページアドレス　　：　www.japanmaetao.org

フェイスブック　　：Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)　で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。
◇◆◇